



元気っ子

No 300 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

先月末は夏祭り（納涼会）へのご参加を頂きましてありがとうございました。コロナ禍において滞在時間など、色々なお願い事をさせて頂きながらの開催にはなりましたが、保護者の皆様のご理解ご協力がありましたおかげで無事に開催することができました。職員の方も、実行委員を中心に検討を重ねながら実施に向けて頑張ってくれました。本当にありがとうございました。

当日は園長主催のフォトスポットの開設を実行委員長に（土下座をして）頼み込み(笑)、一部スペースの使用許可を頂きました。ご覧頂きました皆様、ありがとうございました。ちょうどこの日が大阪府の決勝戦で大阪桐蔭が代表校に決まりました。今年の大阪桐蔭ですが、府大会を54得点、失点はたったの1点という強さで勝ち抜いたのですが、今年の強さもまさに無双状態と言えます。個人的な予想ですが、京都国際の森下君、近江の山田君辺りが無双状態にストップをかけられる存在になるかも・・・。とったりしながら開幕を楽しみにしています。この大阪桐蔭を率いる西谷監督ですが、指導の仕方にある特徴があるそうです。選手の不調や悩みに対して、「こうしたらいい、ああしたらいい」ということは決して言わず、「心が乱れている・・・」など何となく意味深な言葉を伝えるそうです。選手はその言葉から意味を考えたりしながら、自分自身を客観的に見てその不調の原因と対策を考えるそうです。こういったことは誰でも簡単にできることではなく、それこそ幼少期からのそういった経験の積み重ねがあるからこそできるのではないかと思います。そうして突発的な問題などに対しても、自身で考えて解決する力が備わっていることがこの大阪桐蔭の強さの秘訣なのだろうと思います。

このエピソードを聞いた時に、僕たちが関わっている保育の意味と強く繋がりました。日々の保育において、子どもとの関わりの中で小さい子であれば「じゃ、どうしたらいい（よかった）と思う？」といった自分で考えるような援助の仕方をしたり、また、大きい子であれば、先月も紹介させて頂いた「ピーステーブル」という環境を通して自分達で解決させたりします。こういった「問題解決力」や「思考力」というのは総称として「非認知能力」と呼ばれるものなのですが、急に大人になってから身に付けようと思ってもなかなか難しいものです。それこそ保育所保育指針の序章に書かれているように、幼少期からの経験の積み重ねがとても大切になってきます。こういった「非認知能力」が育まれるのは教え込んで出来るようになるものではありません。それこそ環境（経験）を通して獲得していく能力ですので、子どもたちにとって最善の環境を用意することをこれからも考え続けていきたいと思っています。

最後になりますが、ながさわ保育園でも取り入れている「見守る保育」の現場がドキュメンタリー映画として全国で上映されます。舞台となっているのは関東地方のとある保育園ですが、もし少しでもご興味がありましたら是非ご覧下さい。「見守る保育」の意味や目的が保護者の皆様にも伝わりやすい内容になっていると思います。映画のタイトルは「こどもかいぎ」です。三重県ではイオンシネマ東員で8月5日(金)から上映予定になっています。 [映画『こどもかいぎ』公式サイト \(umareru.jp\)](http://umareru.jp)

